

<プログラム> 今年度理事方針



小谷維夫 会員増強・維持委員長(理事)

私は入会20年になります。本日ここに面白い資料をお持ちいたしました。当クラブの創立25周年記念写真(1993年)であります。当時約70名のメンバーのうち現在は15名が在籍されています。ここに会員増強の本質があるように思います。すなわち増強なければ10年で会員数は半減、20年で4分の1、30年で1割となります。いかにクラブの活動のためには会員増強が必要であるかが理解できるかと思えます。よって本年度もチャレンジ100を目標として行きたいと思えます。また会員の増強が拡大すればするほど会員間の交流、特に世代間の交流が大事となってきます。家庭集会等に是非参加して頂いて多くの会員との交流を図っていただきたいと思えます。メーキャップも出来る限りしていただきたいと思えます。他のクラブの良さもわかりますが、なによりも当クラブの元気印がいかに凄いかかわかると思えます。



足立博俊 クラブ広報委員長(理事)

本年度の最重要課題は「ロータリーの友」へ当クラブの事業の投稿であります。皆様の協力を持って是非実現したいと思えます。次に当クラブの事業内容をマスメディアで3回はPRしたく思えます。すでに2回実現しております。一つは本年度「木美体制」の告知報道です。そして米子図書館への当クラブ寄贈セレモニーの紹介であります。以後作文コンテスト、インターアクト等を考えております。最後に当クラブホームページの内容の充実であります。皆様のご提案を宜しく願います。



今出上 クラブ管理運営委員長(理事)

本年度は木美会長の方針であります「ロータリーの誇りを！参加して！行ってみよう！」を最大課題として行きたいと思えます。当クラブ事業予算の約半分を受け持つ委員会であります。3委員会三位一体となってそれに値する事業内容に全力を尽くしたく思えます。特に対外的には地区大会、IM、5RC合同例会等の積極的参加を、対内的には世代交流を目指して行きたいと思えます。



宮永誠治 奉仕プロジェクト委員長(理事)

私はロータリー奉仕活動の原点であります「自分の仕事を通じて社会に奉仕する」をモットーにしております。当プロジェクトの主な奉仕事業は職場訪問、大山一斉清掃(年2回)、中海アダプト(年2回)、作文コンテスト、インターアクト等恒例事業が多数あります。是非多くの会員の方のご参加を心よりお願い申し上げます。



石部裕一 会場監督(理事)

会場監督は英語で「サージャント アット アームズ」(SAA)と言い英国王室議会の守衛官を意味します。それが米国議会からロータリークラブへと伝わりました。ロータリークラブのユーモアさを感じさせる表現であると思えます。すなわちこの会場の運営の権限はすべて私が持っているわけでありです。(笑い)
特に「私語」に関しての注意は遊び心を持ったある方法を考えております。本年度のモットーは「スピーチはユーモアとコンパクトに、食事はせめて10分間を」と考えております。例会では是非とも会員相互の親睦を深めて下さい。